

式 辞

渡り鳥が一斉に北の空を目指して飛び立つ季節。

海峡を渡る風も日一日と和らぎ、春の訪れを感じさせる、今日の佳き日。

大間町 町長 金澤 満春 様、
風間浦村 村長 富岡 宏 様、
佐井村 村長 樋口 秀視 様、をはじめ、

多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、青森県立大間高等学校第四十五回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、遅しく成長され、晴れてこの日を迎えたお子様の姿に、感慨も一入のことと思います。

心よりお祝いを申し上げますとともに、本校に対するこれまでのご支援に深く感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した五十三名の生徒諸君。卒業おめでとう。

皆さんは、大きな希望を胸に抱いて本校に入学し、校訓である「敬愛」「自啓」「健康」のもと、勉学や校内外の活動に青春の日々をかけ、この日を迎えました。

この間、楽しいことばかりではなかったでしょう。学校を辞めたいと思うようなつらい出来事もあったかもしれません。

だからこそ、私は、皆さんのこれまでの日々を支えたであろう、目に見えない「縁」（えん・えにし）という大きな「人の力」について思いを馳せてほしいと思います。

皆さんを深い愛情を持って育てて来られた保護者の存在。授業で接した教職員はもちろんのこと、施設管理など種々の学校運営に努めている事務職員や現業職員、代行員。健康管理をしてくださった学校医の方々。さらには物心両面でご支援いただいている後援会や同窓会会員をはじめとする本校関係者。そして、なにより、皆さんが幼いころから関わりを持ってきたこの地域の多くの方々。

これらの人々が奇跡的に、この時代に、この場所で出合い、つながって、本校の教育がなされてきたのです。

どうか、皆さん。目に見えることばかりではなく、目に見えないこのつながりと多くの方々への感謝の思いをもち、これまでの日々を振り返り、精進することを期待してやみません。

その願いの意味もこめて、ここで、皆さんに一編の詩を贈ります。

（次ページ）

「行為の意味」

宮澤章二

—あなたの〈こころ〉はどんな形ですかと
人に聞かれても答えようがない
自分にも 他人にも〈こころ〉は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか
確かに〈こころ〉はだれにも見えない
けれど〈こころづかい〉は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
〈心〉も〈思い〉も、初めて美しく生きる
—それは 人が人として生きることだ

今から九年前のことになります。東日本大震災の際に、この詩の一部が繰り返しテレビやラジオで流れました。当時、小学生だった皆さんの記憶にもあるでしょう。そして、今、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、あの時と同じように、目に見えない不安の中での卒業式となりました。

しかし、このような時だからこそ、我々の、大間高校の「学びの力」が試されているのです。

本校は、本州最北端にある小さな高校ですが、ここだからこそその出会いとかけがえない思い出を作ることができます。それは、生徒全員が役割を持ち、行動しなければ成り立たない学校だからこそのことです。

そして、皆さんは、気づいていないかもしれませんが、あなたたちの学ぶ姿は、確実にこの地域の未来であり、希望そのものなのです。

皆さんの先輩には、有名無名のヒーローがたくさんいます。

皆さんと同じように

この地で育ち、
この校舎で学び、
人を思いやり、

人のためにと広く全国で活躍しています。

さあ、今度は、皆さんの番です。

あたたかい心で、あたたかい行いをし、

優しい心で、優しい行いをし、

困難な時代に、人として美しく生き抜くことを強く望みます。

それこそが、分校から独立昇格して以来、四十五年にわたり極北の道を未来に向けて切り拓いてきた大間高校生の「学びの道」なのです。

皆さんのこれからの活躍を期待しております。

最後になりますが、本日をもって本校を去る皆さんを前に、大きな寂しさを禁じ得ません。教員は、卒業式の日にもっと生徒のためにすべきことがあったのではなかったかと後悔するものです。

しかし、皆さんのこれからの人生には、きっと、たくさんの素晴らしい出会いと出来事が待っていることでしょう。

別れは新たな人生の始まりでもあります。

いつの日か、大きく成長した皆さんと会うときが来ることを信じ

そして、五十三名の卒業生の前途に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和二年三月一日

青森県立大間高等学校

校長 森田 勝博